

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23028

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童数約 1000 人のマンモス校でも、児童一人一人の学びたい思いに沿った教育の推進のため、本校の研究主題「主体的に学び合う子の育成」に向けて、研究と研修を重ねてきた。</p> <p>◇研究副主題「“自分”がある授業づくり」を目指し、授業改善に努めてきた。その中で、子どもが「やりたい」という思いをもつことができるようになってきている。</p> <p>◇具体物の活用や問いの設定、丁寧な導入などを意識した授業実践を積み重ねることで、児童が学習内容を自分事として捉える姿が見られるようになってきた。</p>
	<p>◇研究副主題「“自分”がある授業づくり」の実践では、学習課題の醸成や問いの質、また既習事項の定着が課題としてあげられた。子どもたちの「できそう」を生み出すための手立てや教師の関わりにさらなる検討が必要である。</p> <p>◇学力テストの結果から、国語・算数ともに全国平均を下回る札幌の結果をさらに下回っている。子どもが考えをもてるような手立ての工夫が必要である。</p> <p>◇採用5年未満の若手教員が多く、授業づくりには課題がある。フォローアップの校内研修や他校参観などの推進をする必要がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題</p> <p>◇本校のアンケートの集計では、自己肯定感が低い傾向が見受けられるのが現状の課題であると言える。児童が安心感をもって学び、安心して学校に来ることができるよう、言葉や表情などの細かな変化を見取り、一人一人にあった教育を推進していく必要がある。自己肯定感を高めることで、相互の関係性にも自信が生まれ、授業が活性化してくると考えている。授業こそ学級経営の基盤ということを全職員が意識し、本校の研究の要である『主体的に学び合う子』の育成に向けて、児童一人一人を価値付けていくことが重要と捉えている。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

見通しをもちながら学習課題に粘り強く向き合い、多様な考えや自己との対話を繰り返すことで、解決に向けて追及していく力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究副主題『“自分”がある授業づくり』の具現化に向けて</p> <p>(1)【視点1】学びの見通しと成果が見える教材化 子どもの問いや疑問を出発点とした学習課題を生み出すための手立てや、子どもが自らの変容や学びの手応えを実感できる単元構成を行う。</p> <p>(2)【視点2】つながりを深め、高めるための関わり 学びとのつながりを生むために、既習事項との関連や次時の学習や次の学年の学びとの関わりを意識した授業づくりを行う。子ども同士をつなげるために、教師の言葉掛けや一人一台端末などのツールを吟味する。</p>	<p>(1)【委員会活動の充実】 委員会の所属学年を5年生からとし、異学年との合意形成や意思決定の方法等を体得しながら、学校生活を向上・発展させていくための実践・体験活動を推進していく。</p> <p>(2)【児童アンケート】 年間4回のアンケート実施と、児童一人一人が担任や教職員と話せる機会を設定し、今の自分を見つめ直し、教師からも良さや頑張りを価値付けることで、自信をもって日常生活を送り、自主的な活動推進に向かう子を育てる。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <p>◇課題探究的な学習の推進においては、(1)において振り返りや成果物を記録しておいたり、(2)において、自らの考えを発信したり、他者と考えを比較、共有したりするために端末内のツールを活用していく。</p> <p>◇自主的な活動の充実においては、大規模校故に大人数で活動することになる委員会活動において、委員会毎に Classroom を開設して情報共有を行えるようにする。各委員会の活動に応じて、児童が Google スライドやフォームを活用できるように適宜指導していく。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

